

高脂血症診療ガイドライン

〈日本動脈硬化学会高脂血症診療ガイドライン検討委員会〉

高脂血症の治療適用基準・治療目標値

冠動脈疾患の予防、治療の観点からみた日本人の高コレステロール血症患者の管理基準

カテゴリー	生活指導・食事療法 適用基準 ^{注1}	薬物療法 適用基準 ^{注2}	治療目標値
A 冠動脈疾患 ¹⁾ (－) 他の危険因子 ²⁾ (－)	LDL-c 140mg/dL以上 (TC220mg/dL以上)	LDL-c 160mg/dL以上 (TC240mg/dL以上)	LDL-c 140mg/dL未満 (TC220mg/dL未満)
B 冠動脈疾患 (－) 他の危険因子 ^{注3} (+)	LDL-c 120mg/dL以上 (TC200mg/dL以上)	LDL-c 140mg/dL以上 (TC220mg/dL以上)	LDL-c 120mg/dL未満 (TC200mg/dL未満)
C 冠動脈疾患 (+)	LDL-c 100mg/dL以上 (TC180mg/dL以上)	LDL-c 120mg/dL以上 (TC200mg/dL以上)	LDL-c 100mg/dL未満 (TC180mg/dL未満)

LDL-c : LDL-コレステロール、TC : 総コレステロール

1) 冠動脈疾患

- ①心筋梗塞
- ②狭心症
- ③無症候性心筋虚血(虚血性心電図異常など)
- ④冠動脈造影で有意狭窄を認めるもの

2) 高コレステロール血症以外の主要な危険因子

- ①加齢
(男性 ; 45歳以上、女性 ; 閉経後)
- ②冠動脈疾患の家族歴
- ③喫煙習慣
- ④高血圧
(収縮期140and/or拡張期90mmHg以上)
- ⑤肥満
(BMI 26.4以上)
- ⑥耐糖能異常
(日本糖尿病学会基準 ; 境界型、糖尿病型)

注1

生活指導、食事療方はA, B, Cすべてのカテゴリーにおいて治療の基本をなすものである。

とくにAでは、少なくとも数カ月間は、生活指導・食事療法で経過を観察すべきである。

Bでは他の危険因子の管理強化でAに改善される例があることに留意する。

注2

薬物療法の適用に関しては、個々の患者の背景、病態を考慮して慎重に判断する必要がある。

注3

末梢動脈硬化性疾患、症状を有する頸動脈疾患や脳梗塞など、冠動脈疾患以外の動脈硬化性疾患を有するものは、冠動脈疾患発症の危険性が高い群として他の危険因子がなくともカテゴリーBに含めて治療する。

高脂血症診療ガイドライン

〈日本動脈硬化学会高脂血症診療ガイドライン検討委員会〉

高脂血症の診断基準値

表1. 冠動脈疾患の予防、治療の観点からみた日本人のコレステロール値適正域および高コレステロール血症診断基準値

	血清総コレステロール	LDL-コレステロール
コレステロール適正域	200mg/dL未満	120mg/dL未満
コレステロール境界域	200~219mg/dL	120~139mg/dL
高コレステロール血症	220mg/dL以上	140mg/dL以上

表2. 高トリグリセライド血症診断基準値

	トリグリセライド
高トリグリセライド血症	150mg/dL以上

表3. 低HDL-コレステロール血症診断基準値

	HDL-コレステロール
低HDL-コレステロール血症	40mg/dL未満

- 1) コレステロール値が境界域にあっても、他の動脈硬化危険因子の存在によっては治療が必要な場合がある。
- 2) 冠動脈疾患発症例は厳重な管理が必要であり、治療適用基準値が血清総コレステロール値180mg/dL (LDL-コレステロール値100mg/dL) 以上に設定されている。コレステロール値が適正域にあっても治療を必要とする場合があることに注意する。